

月報

<430号>

ケルン・ボン日本語
キリスト教会

二〇一六年六月二八日発行

『祝福の約束』

創世記二二章一一九節

ヘブライ人への手紙一章八―一二節

佐々木 良子

本日はケルン・ボン日本語キリスト教会に心を寄せ、頂き、多くの方々が就任式にいらして下さり心から感謝いたします。このような日本の小さな教会の為に祈り、支えていて下さっていることは、私たちにとって大きな力と励みとなっています。又、本日は一緒に、神の御言葉を聞ける幸いを嬉しく思います。私たちの教会はこの就任式によって、改めて新しい一歩を踏み出しましたが、信仰の父と呼ばれるアブラハムの出発について共に御言葉に聞いていきたいと思えます。

1. 冒険的信仰

「あなたは生まれ故郷、父の家を離れて わたしが示す地に行きなさい。わたしはあなたを大いなる国民にし、あなたを祝福し、あなたの名を高める 祝福の源となるように。」(創世記一二・一一)と、神から呼びかけと、「信仰によって、アブラハムは……行き先も知らずに出発したのです」(ヘブライ人への手紙一一・八)と、アブラハムの応答が記されています。

アブラハムの信仰の旅立ち、彼自身が思い立ったのでもなく、何か良い考えがあって踏み出したものでもありませんでした。唯、神のお言葉を聞いたのです。それには具体的なものは何一つなく、何も分からない

状況でした。彼にとつての都合や計画があったかと思えますが、ひたすら神のお言葉に応答し続けた人生でした。正に信仰における冒険ともいえる旅路でした。

クリスチャンで日本の有名な哲学者・思想家である森有正氏が「真の冒険は、何も北極や南極探検ではない。新しいものに触れて、自分もまた新しくされて行くとき、そういう生き方を貫いていく時に、私たちは冒険を味わう」と述べています。

私たちは自分に不都合な出来事に遭遇すれば避けて通りたいものですが、彼はそのような時にこそ自分が崩され、変えられ、新しくされていくチャンスだと言います。それが信仰の冒険であって、正にアブラハムの信仰でした。信仰とは先が見えて確信があるから進むのではなく、分からないけれども神がどのようなことをしてくださるのか期待しながら進むことです。

2. 神に対する信頼

「約束をなされた方は真実な方であると、信じていたからです。」(ヘブライ人への手紙一一・一一)と、「約束」という言葉が繰り返されています。神は真実なお方で、ご自身の御業を途中で断念したり、放棄されたりはなさらず、約束は必ず果たしてくださるお方です。アブラハムの信仰はこの神の約束を信じ続けた歩みでした。

私たちの教会に対しても、神の目的と私たちの行くべき道は既に準備されています。今は神のご計画は誰にも分かりませんが、私たちは信じて神の御声を聞きながら期待して従って歩み続けていくのみです。もしかしら私たちの思いと全く違つ歩みを示されるかもしれせん。しかし、これからの全ての出来事、喜ばしいこと、受け入れ難いこと等、全てを祝福の約束と共に用意してくださっています。教会とは、このよう

に真実で恵みに溢れておられる神の約束を信じて神に従い、応答していく人々の集まりです。

3. 神のご計画 人の計画

アブラハムの信仰の歩みと正反対な歩みをするのが神を知らないこの世の人々の歩みです。多くの方は自分の人生設計があつて、順風満帆に思い描いた通りに歩む事が幸いな人生と考えます。又、地位や財産を持つ人を成功者、勝利者と褒め称えます。しかし、本当の幸いは人間が計画して努力して何かを獲得していくものではなく、アブラハムの如く、過去からの決別と、自分というものが崩されて、神から与えられた、用意されたものを受け取ることから始まります。

信仰者は自分の思いや願いを押し通していく歩みではなく、自分の思いが崩され、神から与えられた道に従って行きます。私たちの人生の設計士は私たちを創造し、私たちを愛し、罪から救ってくださるイエス・キリストです。そして行き先は神のみが定めてくださり、そこには必ず祝福の約束が伴っています。

4. これからのケルン・ボン日本語キリスト教会の歩み

私たちの日本の教会は小さな群れですが、このように今もイエス・キリストを土台としてドイツの地に建てられています。昨年は牧師不在という状況ではありましたが、神の憐みと皆さまの助けにより日曜日ごとの礼拝が守られ、三八年間教会が存続しているということは、必ず神が備えていてくださる祝福の計画があるからです。しかし、これからも決して平坦な道ではなく、紆余曲折、困難なことに突き

当たると思います。故に神の祝福の約束を信じて歩み続けるならば、たとえ労苦して歩んだ道でも、いや、涙して歩んだ道だからこそ、やがて全ての道は祝福の地であったということを知ることになるでしょう。そうして益々神の豊かさを知っていくこととなります。

イエス・キリストは今も生きて働いておられ、御業を行いつつ私たちのために道を開きつつ、前進されるお方ですから、信じて従っていくのみです。私たちは特別な資質を持っている訳でもなく、頑張って生き抜くものでもありません。ただ罪赦されて復活の命を頂いて、救い主イエスの導きを信じて歩み続けています。イエス・キリストを私の主と告白する限り、私たちの教会も私たちの人生も神の祝福の約束により守り導かれていきます。この幸いを心から感謝します。

(二〇一六年六月二六日・就任式礼拝説教)

准允を受けて

日本基督教団阿佐ヶ谷教会伝道師

江原 有輝子

懐かしいケルン・ボン日本語教会の月報に喜ばしい知らせをお伝えできることをうれしく思います。

今年五月二九日の西東京教区総会で、准允を受けました。誓約をするとき、その厳肅な重さが身に迫りましたが、「約束します」と口で告白すると、心は静かな温かさで満たされました。式の後、多くの先生方や信徒の方々がおめでとうと言ってくださって固い握手を交わし、大きな喜びに包まれました。

六月五日には、阿佐ヶ谷教会の主日礼拝の中で、大宮博牧師によって就任式をしていただき、愛餐会には一〇〇人の方が集ってくださいました。母・妹・叔

母・かつての同僚までが、就任式のために遠くから来てくれて、和やかに楽しい愛餐会となりました。

私は、一九九八年にドイツで働いているときに、外国での仕事と生活の中で大きな問題に突き当たり、その困難の間に、小塩節先生がケルン・ボン教会を紹介してくださいました。そこで洗礼を受けて教会に連なるものとされました。その後、数か国で働いたのち、帰国後二〇〇九年にキリスト教主義学校の校長となりました。後で、その仕事を得ることができたのは、私がキリスト者だったからだと同じでした。感謝して喜びの中に赴任しましたが、その仕事を途中でやめなければならぬ出来事がありました。その出来事の意味を神様に問い続ける中で、神学校入学の希望が与えられました。

二〇一二年四月に神学校に入学すると、五月に父が亡くなりました。もう後戻りできないと諭されたように感じました。毎日の勉強は厳しいものですが、学問の深みに触れる喜びを与えられつつ、平安の裡に過ごすことができました。修士課程では旧約聖書神学を専攻し、コヘレトの言葉の「すべてのことには時がある」という「時の詩文」の個所で修士論文を書きました。この聖書箇所は、私がドイツで苦しんでいた時に日本の友人が書き送ってくれたもので、その言葉が私を救いました。論文では、すべての定められたときが「平和の時」に収斂していくこと、「平和の時」が失われた地平からそれを振り返るとき、その深い価値が初めて理解できるという結論に到達することができました。そして、この言葉の持つ深みが、苦難の中に落ち込んだ私を救ったのだということが分かりました。受洗も、神学校入学も、准允式も、神様はわたしに最もふさわしい時を与えてくださいました。

四月から阿佐ヶ谷教会にお仕えし、何度か礼拝の司式をしました。説教をなさる説教者の後ろ姿を見、そ

れを聞く会衆の皆様を見るたびに、身の引き締まる思いがし、また、そうした荘厳な場に立ち会わせてくださる神様への感謝でいっぱいになります。

阿佐ヶ谷教会は現在主任牧師が不在なので、しばらくの間は空いている牧師館に住んでいます。私の父の時代には定年退職をした年齢になって、するべき仕事も住むところも与えられ、毎日感謝の思いで働いています。

就任式の日は、ゆくりなくも、お隣の阿佐ヶ谷東教会の小西さんが教会に見え、ドイツから藤井さん夫妻と尾畑さん夫妻が見えていて、火曜日に夕食会をしますと招いてくださいました。阿佐ヶ谷教会長老でありケルン・ボン教会にお世話になった谷道まやさんと二人で、大喜びで伺いました。神様が、最もふさわしい時に、まことに私にふさわしい最高のプレゼントを与えてくださったと感じて、実に楽しく感謝に満ちたひと時を過ごすことができました。准允を受けて、これから正式に伝道師としてお仕えし、説教者の中に加えていただくこととなります。神様から与えられた職責を一生懸命果たしていきたいと願っています。

佐々木良子牧師就任式に出席させていただきました

「佐々木良子宣教師を支える会」を代表して

日本基督教団 小松川教会 佐々木馨

日本基督教団より宣教師として派遣され、ケルン・ボン日本語教会の牧師として佐々木良子牧師が就任されましたこと、誠におめでとうございます。心からお祝い、喜び、感謝いたします。そして「佐々木良子宣教師を支える会」からの代表として、日本から

この度の就任式に出席させていただき深く感謝いたします。

ドイツに來させていただき、まずは想像以上に素晴らしい国だと感じました。キリスト教の歴史がそのまま溢れる街の景色、造り、史跡などで心洗われる時を短くても与えていただき本当に感謝でした。そしてこの素敵な国へ佐々木先生が遣わされた意味を思いましました。

就任式礼拝にて聖霊のお導きを強く感じました。使徒言行録を読んでいても日本にいて、異邦人の中へ宣教していった先人たちの歩みや苦勞は頭で知っても中々肌では感じないことです。しかしこのドイツではその恵みをより近くに感じます。異国の中で一つとしてくださる、人種を超えた垣根の無い、神様の恵みを肌と心でより近くに感じる事ができました。

日本にいると知らず知らずのうちに心に垣根を作っています。他教会、他宗派、他人種、他国籍、その他の事にまで目も心も中々向きにくいのです。

佐々木先生が日本の小松川教会を辞してドイツへ行かれると知ったとき最初は困惑と悲しみでいっぱいでしたが、心の中の小さな垣根を知らされました。そして佐々木先生がドイツへ行かれることがどんなにか大きな主の恵みと御業であるかと教えられました。そしてこの事により私たちもドイツの教会を家族として祈り、ドイツからも家族として祈って祈っていただけようになり、それはどんなに尊いことでしょうか。

今回の就任式で沢山のドイツの先生方の言葉もいただきました。理解できたのも通訳の働きをしてくださる方、プロジェクトで内容を映写してくださる方の働きがあつての事でした。また、素晴らしい音楽、独唱、すべての準備の働きを通してこの式を用いて、神様が伝えようとなされたことが、とてつもなく大きな

恵みです。日本でいつも佐々木先生や日本語教会のことを思いお祈りしている方々への大きなお土産です。ご奉仕してくださった方々ありがとうございました。

司式のシェーファー先生の教会と佐々木先生を見守る暖かい姿勢と言葉に感激いたしました。またドイツの教会も日本語教会から学びこともあるとおっしゃられた言葉が心に残ります。このことから先生の使命を知ります。佐々木先生は色々な懸け橋になられていられるんですね。小さな女性牧師をこんなにも大きな働きに用いられる主の御業。なんと表現していいかわからないほどの恵みの感動と喜びです。

これからの佐々木先生とケルン・ボン日本語キリスト教会の働きに大いに期待します。そして私たち支える会も祈り、できるだけの支える働きをいたします。私も今回の就任式で与えていただいた恵みをちゃんと日本へ伝えねばと、心引き締められました。世界中の日本語教会が繋がり支え合いができれば、とも強く思わされています。そのためにも周知する歩みも力入れて歩んでいくよう励んでまいります。これからもドイツと日本の教会が手を携えて支え合って、主に仕え、励み、霊に燃えて歩んでいければと強く願ひ祈ります。

この素晴らしい就任式を準備され、ご奉仕された教会員の方々、また私がドイツに滞在中にまるで我が家のように安心させていただき、手厚く接待していただいた方々、いつも支え励ましてくださる佐々木良子先生、深く深く感謝いたします。ありがとうございます。

忘れることのできない就任式の素敵な旅とさせていただきます。

神様、限りなき感謝と賛美をおささげ致します。



聖書の食事

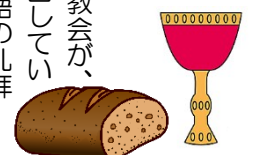
シユミット亜弥子

私達が使用させて頂いているドイツ教会が、数年前から年一回「聖書の食事」を企画している。六月五日は私達も午前中のドイツ語の礼拝に出席してその後風食を共にした。

今回の礼拝はルカ一四章の大宴会の譬えの箇所です。説教はポツダム近くのパートナー教会の女性牧師だった。礼拝中の聖餐式では、祭壇のまわりを中心に全員大きな輪を作り、牧師が一人一人に祈りをこめてパンを手渡し、配餐を手伝う教会役員がワインと葡萄酒ジュース(ワインを飲めない人の為に)を持ってまわる。最後にみんなで手をつないで牧師からの聖句を聞き、両隣りの人の手をぎゅと握り返し、目で挨拶をして終わる。私達の教会員の中には初めてドイツの聖餐式を経験する人もいた。

食事の方は五〇人程が参加し、役員の中で料理の好きな方が中心になり、今回はイラン風の料理が準備された。テーブルは素敵なレストランのように、白いテーブルクロス、六種類の品が書いてあるメニュー、何処かの庭から持ってきたらしい薔薇の花が飾られ、とてもいい匂いがした。そして何人かの給仕が付き、色の綺麗な前菜から調味料、香料など日本人の私達にはめずらしい料理だったが美味しかったです。赤ワインも一緒に。最後はカルダモン入りのコーヒー。メニューを見ながら、どんなのが出るのか興味しんしん、わくわくの聖書の食事だった。

参加者は帰る時に各自思つ費用を出し、その中から料理にかかった実費が引かれ、残りは「世界にパンを(Brot für die Welt)」に献金される。



◇ 報 告 ◇

佐々木良子牧師の牧師就任式が六月二十六日の主日礼拝の中で執り行なわれました。当日の就任式の司式はラインフント福音主義教会外国語教会担当牧師のマルクス・シエーファー先生と日本基督教団魚津教会牧師のルツ・ウエーラー先生によって執り行われました。遠方からおいでくださった方々、この日のためにお祈りくださった方々に感謝いたします。礼拝後はピュッフエを囲み、交わりの時を持ちました。

佐々木牧師の活動を日本から支援する「佐々木良子宣教師を支える会」のホームページ (<http://ryokosasaki-missionary.com>) やフェイスブック (<https://www.facebook.com/ryokosasaki-missionary/>) では佐々木牧師のドイツでの活動・生活の様子を見ることが出来ます。どうぞ御覧下さい。

六月二日の野外礼拝は例年通り、ケルンのコロッセ・ナガサキ公園で行われました。当日は時折小雨が降る肌寒い天気でしたが、大きな木々の枝葉に守られ、雨に濡れることなく、自然の中で主を賛美することができ感謝でした。礼拝後は持ち寄りの食事とバーベキューを食べ、ゲームで盛り上がり、楽しい時間をすごすことができました。

◇ 予 告 ◇

夏季休暇 七月一日から八月三日まで、ノルトライン・ヴェストファーレン州は夏休みを迎えます。夏季休暇中も家庭集會、聖書を読む会は通常通り行われます。

第三三回「ヨーロッパ・キリスト者の集い」が七月二七日から三一日まで、スイス日本語福音キリスト教会

の主催によりドイツの Bad Teinach-Zavelstein にて開催されます。テーマは「み国を待ち望む」です。準備にあたられている奉仕者のためにお祈り下さい。

◇ 【礼拝場所の変更のお知らせ】 ◇

ボン・ハップファー教会の改修工事のため、七月一日と九月一日の間、リンデンタール地区のパウル・ゲルハルト教会にて礼拝を行います。礼拝時間は通常通り一四時からです。

Paul-Gerhardt-Kirche

Gleueler Str.106 (Ecke Lindenthalgürtel), 50931 Köln

行き方: Neumarkt から14番のバスで Gleueler Str./Gürtel下車

《七月・八月の主な礼拝・集會の予定》

七月 三日(日) Strassenfest (教会通りのバザー)

※ボン・ハップファー教会との合同礼拝後、教会玄関前に日本食コーナーを出店してバザーに参加します。

七月 五日(水) 聖書を学ぶ会(牧師宅) 一〇時

七月 一〇日(日) 礼拝後、五分間祈禱会

※この日から九月一日まで礼拝場所はパウル・ゲルハルト教会になります。

七月 一四日(木) ケルン家庭集會 一時より(シムミット姉宅)

七月 一七日(日) 主日礼拝

七月 二〇日(水) 聖書を学ぶ会(牧師宅)

七月 二四日(日) 賛美礼拝

七月 三一日(日) 主日礼拝 説教: 橋本祐樹牧師

八月 七日(日) 平和聖日礼拝 聖餐式
礼拝後、山崎知行氏講演会
八月 一一日(木) ケルン家庭集會

※集會についての詳細は牧師までお問い合わせ下さい。

《山崎知行氏講演会のご案内》

八月七日、パウル・ゲルハルト教会での礼拝後、引き続き同教会にて山崎知行氏(内科医)の講演会を行います。テーマは『フクシマの現状』です。友人・知人をお誘いの上、多数のご参加をお待ちしています。

山崎知行先生(七三歳)について:

一九八四年以来和歌山県で内科診療所を開業。日本基督教団愛隣教会(和歌山県海南市)会員。チエルノフィリ原発事故以降、放射能の人体への影響に関する情報の収集に努める。二〇〇五年から合計四回NCCチエルノフィリスタディツアーに参加し、ベラルーシ、ウクライナの現状を視察。二〇一一年フクシマ原発事故発災後同年七月・一〇月の二回福島を訪問。二〇一二年以降日本基督教団東北教区の依頼により、同教団大阪教区から派遣されて主に福島県で定期的な子供健康相談会を開催。

発行:ケルン・ボン日本語キリスト教会役員会
Japanische Evangelische Gemeinde Köln-Bonn e.V.

〈主日公同礼拝〉
会場: Dietrich-Bonhoeffer-Kirche
住所: An der Decksteiner Mühle 1
50935 Köln (Lindenthal), Germany
電話: 0221-4300319 (礼拝前後のみ)
時刻: 毎週日曜日 14:00-15:00
〈牧師〉 佐々木良子 (Fr. Pfr. Ryoko SASAKI)
牧師館: Breslauer Str. 26, 50858 Köln
固定電話: 02234-9298792
携帯電話: 0151-2910 6278
Email: r310130s@yahoo.co.jp
〈ホームページ〉
<http://koelnbonn.jp>
〈振込口座〉
IBAN: DE97 3601 0043 0587 6034 38
BIC: PBNKDEFF